

あいかわ ゆうや
相川 雄哉 講師

神戸大学大学院経済学研究科博士課程修了
博士 (経済学・神戸大学)

YUYA AIKAWA

専門分野



開発経済学、
経済史

Q 担当科目を教えてください



開発経済論

開発経済論では、アジアやアフリカなどの発展途上国が直面する課題を、経済学の視点から考えます。戦前から戦後初期にかけての日本も、かつては貧しい国の一つでした。そうした歴史も踏まえながら、途上国の発展や国際協力について具体的に学んでいきます。授業では、理論だけでなく、実際の事例や最新の実証研究にも触れながら、世界の課題を自分自身のこととして考える力を身に付けてほしいと思っています。

演習 (ゼミナール) : データから身近な経済現象を読み解く

テーマは幅広く、企業、音楽、スポーツ、エンタメ、消費行動など、自分の関心に合わせて設定できます。データを集めて、「なぜそうなるのか」という仮説を立て、実際に分析しながら、根拠をもって説明したり提案したりすることを大切にしています。ゼミを通して、データ分析の基礎だけでなく、自分で問いを立てて考える力、発表する力、仲間と議論しながら考えを深める力も身に付けてほしいと思っています。

Q 研究のテーマは何ですか?



私の研究テーマは、発展途上国や日本の産業発展の過程を、歴史とデータの両方から明らかにすることです。具体的には、企業や産業がどのように成長するのか、また制度の違いが経済発展にどのような影響を与えるのかを研究しています。日本の歴史的経験と現在のアジア・アフリカの事例を比較しながら、現場感覚を大切にしながら考えることを重視しています。

Let's read a book

わたしの
おすすめ本

なぜ貧しい国は
なくなるのか
正しい開発戦略を考える
(第3版)

著者 大塚 啓二郎

出版社 日本経済新聞出版

出版 2025年11月

ISBN 9784296125807

私が研究者を志すきっかけになった一冊です。発展途上国の貧困や経済発展について、理論だけでなく現実の事例も交えながら、わかりやすく考えられる本です。開発経済学に初めて触れる人にも読みやすく、世界の貧困や格差の問題を自分自身のこととして考えるきっかけになる一冊だと思います。





Q 研究者ってどんな仕事ですか？



世の中でまだ十分にわかっていないことや、すでに当たり前だと思われていることについて、そのまま受け入れるのではなく、データや資料を使って丁寧に確かめることが、研究者の大切な役割の一つだと思います。そして、その発見を通して政策提言につなげ、よりよい社会の実現に貢献していく仕事です。

Q 先生ってどんな人？



休みの日は何をしていますか？

休みの日は、映画を観たり、音楽を聴いたりすることが多いです。ギターやベースを弾くのも好きで、気分転換にもなっています。研究の仕事は一人で考える時間も多ですが、音楽や映画に触れることで気持ちを切り替えたり、新しい発想を得たりしています。



どのような大学生活を過ごしていましたか？

学生時代は、勉強だけでなく、アルバイトでお金をためてバックパッカーとして海外をたくさん旅し、時間のあるときにしか見られない景色をできるだけ見ようと意識していました。また留学経験は、自分の常識を問い直す大きなきっかけにもなりました。大学生活は、授業で学ぶだけでなく、自分の知らない世界に出会う時間でもあると思います。興味を持ったことには、ぜひ積極的に挑戦してほしいです。



大阪産業大学キャンパスや大学周辺でのおすすめスポットは？

大学キャンパスは緑が豊かで、落ち着いて過ごせるのが魅力です。周辺を歩いて気分転換をすると、大学生活の楽しさがより広がると思います。



学部生のときに、インドのデリー大学へ留学していたときの写真です。現地で生活しながら大学で学んだ経験を通して、理論と現場の両方から途上国の現象をとらえることの重要性を学びました。本当に毎日カレーを食べて生活していました。